

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271700124		
法人名	医療法人 玄州会		
事業所名	グループホームみのり	ユニット名	
所在地	長崎県壱岐市郷ノ浦町東触字平1010番地1		
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年1月22日	評価確定日	平成26年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営方針</p> <p>①ゆったりとした生活:入居者各自の生活ペースに合わせる</p> <p>②楽しく:入居者と共に各種行事や趣味活動に取り組み、毎日の生活の中で生きがいづくりができるように、楽しい憩いの場づくりをする。</p> <p>③自由に、ありのままに:入居者の自己決定権を尊重し、入居者が生活の主体となりその人らしく生活していけるよう、できる限り入居者の希望や要望を取り入れたケアをする。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホームみのり”は医療法人玄州会が運営しており、老健や通所サービス、職員の子供たちが過ごす保育園も隣接している。保育園は同じ屋根の下にあり、子ども達の笑い声や泣き声も日常で聞かれ、園児との交流は入居者の楽しみになっている。職員のチームワークも良く、経験の長い職員も多い。更なるレベルアップに向けた異動は行われているが、ホームの職員の離職はなく、管理者と主任を中心に、馴染みの関係で温かいケアが行われている。家族の方々も、職員と入居者のお姿を見られ、「微笑ましい」と言うお言葉を頂いている。26年の元旦には、お1人おひとりの写真を撮り、当日、家族に送る取り組みも行われ、家族も喜んで下さった。入居者の役割も大切にされており、洗濯物を担当して頂いたり、ご自分のかつぼうを着て料理のごしらえをして下さっている。男性職員が増えた事もあり、3人の男性職員が献立を考え、プロ顔負けの衣装で腕を振るう機会も作られた。遠出の外出も増え、職員個々の特技を発揮して頂いている。“みのりの家族”として、入居者が生活の主体となりその人らしく生活していけるよう、できる限り入居者の希望や要望を取り入れたケアを続けているホームであった。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針をホームの入り口付近に掲示し、日々職員が確認しながら、実現を目指している。 新規入居者の家族には理念の説明をし、職員も再認識をするようにしている。	職員の離職も無く、理念を大切にケアが行われている。ケア方法が職員主導になりがちな時は話し合い、理念の再確認も行われている。入居者各自の生活ペースに合わせた支援を行うと共に、天気の良い日は外でバイキング等を楽しんでいる。男性職員が増えた事で遠出のドライブも増えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にドライブや遠足など実施 地域の自治会に加入、草切、道路清掃の参加協力、避難訓練や行事等への参加依頼をして[みのりの家族]を理解して頂けるようにしている。	地域のお祭りに参加したり、婦人会の方がホームに来て下さり、「笑いヨガ」を楽しんでいる。中学生の体験学習や、さくらんぼ保育園の園児訪問もあり、笑顔溢れるひと時となっている。ドライブを兼ねて、知的障害者通所授産施設であるレストラン「結」での食事や、「Cafe de 詩音」のケーキも楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設老健と合わせて「認知症家族の会」の会議に参加している。 婦人会等の集まりの中で介護保険や、ケアの在り方等についてお話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営会議開催で家族、地域の役員の方々と交流ができ意見交換ができつつあると感じる。 職員の意識が一番変わったように思う。地域とのつながり、色んな人達との交流の必要性、大切さが理解できてきた。	24年度から2ヶ月に1回の開催ができています。入居者の方も全員参加し、日頃の感想を伝えて頂いている。日々の活動報告を行う中で、参加者との意見交換も続けており、香岐消防署の方に火災防止対策のお話をして頂いた。会議を通して、ホームの存在や役割を知って頂く機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報紙を配布し、事業所からの情報提供を行っている。また管理者より市担当者との連絡をとり協力関係を築くように取り組んでいる	市との話し合いには理事長などが参加しており、運営推進会議の案内は、管理者が市の課長に持参している。法人全体の相談をした時にも親身に対応して下さい、対策も考えて下さっている。香岐市健康保健課の方から、「香岐市における成年後見制度の活用事例」の講和をして頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。が一時的に数分間、玄関の施錠や個室の窓ガラスの一部閉鎖をしている。	穏やかに生活されている方が多い。感情不安定になられる時は理由を把握し、落ち着くまで見守り、その時のお気持ちに応じて、そっと一人で過ごせるような配慮もしている。帰宅願望が見られる時は散歩をしたり、自宅にお連れしている。テレビのシーンで興奮する方もおられ、安心して見る事ができる番組を選ぶようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H24.10「高齢者の虐待対応」について運営推進会議にて学習会、意見交換を実施した。マスコミ等でニュースになった時等も職員間で情報共有をした。日常では入浴や更衣等の際に皮下出血、表皮剥離等全身状態の観察を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	みのり内で弁護士さんへ依頼されていたご家族もあり、本年後、10.24運営会議で市役所へ依頼し講和、意見交換。同法人内の社会福祉士等に相談できる体制を整え、市内での研修会等への参加を進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、当日に文書で説明、変更時は再度説明している。みのりでの生活状況を見学して頂き、職員の紹介、おこり易い事故、急変時の対応、夜間の状況等を説明。利用料の内訳、請求日等は事務担当からの説明あり。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な家族の意見や要望の把握のほか、年1回の個別面談で、ゆっくりと話を聞く機会を設けている。そこで得られたニーズや課題については、会議等で話し合い、運営に活かしている	「何か要望はないですか」と家族に声かけしている。年1回の個別面談で悩みや不安などを聴く機会が設けられ、看取りについての意見も伺い、ホームの方針の説明が行われた。家族会は年2回行われ、6月はそうめん流し、12月にはクリスマス会が行われた。30名以上の家族が集まって下さり、家族交流の機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティング以外に、日常的に職員の意見や要望を聴き事業に反映している。職員間のトラブルを早くに察知し個人面談で解決策を探るように対応している。	職員の要望は、主任から管理者に報告しており、組織や上司への要望、処遇や異動についての話し合いも行われている。職員個々にアンケートを行い、要望などを提出してもらっており、やる気を出す取り組みを続けている。企画が得意、実践が得意など、職員個々の得意分野を発揮できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員により勤務状況の改善を図った。休職後の職員をリハビリ目的で配置、職員への協力体制を依頼した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の履歴、異動等の情報確認し、1年間達成可能な目標の設定と将来にむけての夢等についてお互いに情報を共有し、研修企画や他での研修参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設施設との委員会などに参加。他部署研修や法人内症例発表会での報告、新規GH「壱岐の郷」との交流会の開催、情報交換を実施		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の家族歴、生活歴、リスク等の情報をチームで早くに共有しご本人、ご家族の希望をふまえ、入居前の面談時に本人及びご家族の話を傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に家族の話を聞き、また居宅介護支援事業所や利用されていたサービス提供事業所等からの情報をもとに、チームでの情報共有、カンファレンスの実施にて暫定プランを作成、家族へ説明、同意を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意見から外泊を取り入れたり、買い物などの外出を取り入れている。生活環境の設定、畳、低床用ベッド、トイレの位置、転倒、骨折に配慮した環境、生活歴から睡眠、排泄パターン、嗜好、人との関わり方等を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	みのりの家族としての思い、入居者一人一人の役割、本人の趣味などを活かせるような工夫(園芸や農作業)をしている。買い物や調理、チームでの作品作りへの参加、協力をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を良好に保ち疎遠にならないように、買い物や散髪、家庭の行事などでの外出や外泊を取り入れている。家族会でのグループ分けの工夫、孫、ひ孫との団らん、家族欠席の場合は婦人会、職員の協力体制。家族の役割認識		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な家族会への参加企画。混乱を防いで、ゆっくり話ができる雰囲気づくりを心掛けている。また、なじみの場所へのドライブなどを心掛けている。部屋に自作の作品を飾る。	離床時間と車いすに座る時間を延ばしていく計画が作られ、法要のための自宅外出を実現する事ができた。また、ケーキ作りやソーメン流し等を企画する事で、家族会にお孫さん等も来て下さり、ご本人も喜ばれている。教子の方が面会に来られたり、病院の待合室で友人から声を掛けて頂く事もあり、家族にも報告している。	お墓参りやスーパー等に家族と行かれている方もおられる。今後も馴染みの人や馴染みの場所を把握し、ご本人の要望と思われる場所を家族同士で話し合う機会が作れるように支援すると共に、家族にも協力して頂き、実現に向けた取り組みを続けていく予定にしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きな音楽を流して皆で歌う思い思いの楽器を演奏する。昔の生活を思い出して話に参加してもらう。職員がソファ等にいっしょに座って過ごしたり、同じ作業をしてもらったりしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで中断した場合などは状況把握を兼ね、面会等に出向いている。亡なられたご家族への悔み、葬儀参列、みのり訪問時の思いで話に時間をつくり「みのりの家族」としての思いを共有する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動から利用者の希望や意向を汲み取るように努めている。入居前の生活歴、家族関係からご本人の生き方、大切にされていた事、性格や、くせを良く知る。	日常の会話や行動から、入居者の希望や意向を汲み取るように努めている。担当制を導入した事で、より個々の入居者と職員の関わりが深くなってきている。「買い物に行きたい」「家に帰りたい」と言う希望も聞かれ、お連れしている。居宅時代の担当ケアマネとの話し合いも行われ、ご本人を把握するための意見交換を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞いたり、他のサービス利用時の状況などを把握している。面会時には色々な家族とご本人の昔話をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顔色や表情、食思、水分摂取の状況、排尿、便の状況、歩行状態、入浴時の状況等、いつもと違う状態の観察がいち早くできるように、職員個々のレベルを高めるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向については、日常的なかかわりなどの中で把握している。計画作成担当者及び受け持ちを中心とし、主治医や看護職員の意見を取り入れながら全職員で現状に即した介護計画の策定に努めている	計画には、買い物や家事、下ごしらえ、歌を唄うなど、入居者個々の役割や楽しみが盛り込まれている。光風の社会福祉士との連携も図り、主治医からも転倒予防や排泄、食事へのアドバイスを頂いている。アセスメントの総括表(まとめ)も作られ、3表の改良も行われており、家族との更なるケア内容の共有をしていく予定にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新規入居者及び状態観察者に関しては、1週間状態観察記録用紙にて情報共有をしやすいようにしている。カンファレンスや朝の申し送り時に個々の対応について話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設を活用し、各々のニーズに対応しているPリハビリ訓練、DVD体操、リクライニング車イスの使用。OT、PT、管理栄養士、支援相談員、クリニック看護師、各委員会等との連携を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント行事(夏まつり、演劇、音楽祭)などに可能な限り参加している。ドライブ兼ねての外出。婦人会の来所や併設施設の行事参加、隣接託児所との交流、新GH「杵岐の郷」との交流を開始。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の定期健診、歯科検診はもとよりご家族希望のかかりつけ医を受診し、看護師、家族の付き添いを行う。歯科受診往診も可。	管理者が看護師であり、職員からの相談に応じている。主治医の往診もあり、サービス担当者会議にも出席して下さり、ケアの指示も頂いている。職員の観察力が高く、早期対応に繋げる事ができており、微妙な症状の変化や薬の相談も含めて、管理者と主治医との意見交換が密に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々観察を行い気づきなどは随時報告している。管理者(看護師)による状態把握実施ができています。クリニック、DSの看護師、及び光風入所看護師との連携もできています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供(医師紹介状、看介護添書)を提供している。入院時はみでの生活の様子、ご家族の希望等を説明。入院中は定期的に病院の主治医、看護師さん達との面談を予定し情報交換を実施。退院前ムンテラへも同席にて情報共有を図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個別の家族面談の際に、グループホームの方針を伝えている。利用者と家族の意向はミーティングなどで職員間の共有を行い、希望に応じた支援を行っている。病院の医師、看護師との情報共有、連携強化。	「最期までここで」と言う方が全員であり、医療への希望も聞いている。主治医と看護師、職員が連携し、精神誠意のケアが行われている。ホームでの生活が難しい場合は、適切な医療機関に入院できるよう手続きの支援も行われている。24時間体制で往診も受けられ、終末期には家族の事情(島外・体調など)も受け止めており、管理者(看護師)が主となり、繰り返しの話し合いを続けている。	職員の異動もあり、終末期ケアを経験していない職員もおられる。管理者が中心になり、看取りの体験談等を共有する時間を持ちながら、人の死に対する受け止め方や想い等の意見交換を行う予定にしている。自然死への受容や個人の死生観の確立も含め、学習会を定期的に行っていきたいと考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測可能なリスクの洗い出し及び対応。緊急・急変時対応のイメージトレーニング 連絡体制・通報などのマニュアル作成。光風本体看護師との特に夜間の連絡体制の強化		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練実施。消防署職員に参加していただき実施している。最も近い自治会員の方の見学を依頼、災害時等の協力イメージをしていただいた。(吉川畳屋さん)	春は併設通所介護と託児所職員と夜間想定訓練が行われた。秋は消防署も一緒に昼間想定訓練が行われ、消防署の方からもお褒めの言葉を頂いた。災害に備え、管理栄養士の指導のもと、3～5日分の食料や飲料水などが準備されている。避難しやすいように道路の拡張工事が行われ、スプリンクラーも設置している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉を使わないよう、また本人の思いを十分聞くように心掛けている。入居者の笑顔がでるような心地好い、声かけ、対応に努めている。	傾聴を心がけており、人生の大先輩である事を肝に命じて、日々のケアを行っている。入室時には声かけし、排泄時はトイレのドアを閉めるなど、細やかな配慮をしている。ケアを行う時は入居者の意向を聞き、さりげない支援に努めている。優しい職員が多く、入居者と一緒に穏やかな生活が送られている。	職員の少ない時間帯などに、ご本人の行動を抑制するような言葉が聞かれるとの事。“みのりの理念”を振り返り、馴れ合いに気をつけると共に、“介護のプロ”として個々の入居者に寄り添えるケアをしていきたいと考えている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を多く持つことで利用者本位のケアに努めている。昔の生活、家族への想い等個々の思い出話をして頂く中でその人が大切にされている事、不安な事、希望等を知る機会を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思疎通困難な方には表情やうなずきなどからその人のペースを大切にしている。毎日あまり変化のない生活であっても「いつもと違う何か」を感じ、早めの対応ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えを支援をしている。なじみの美容室へ出かけることもある。ステキ、似合う、明るく若返ってみえる等の言葉かけ等で、本人が幸福な気持ちに感じられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や調理、片づけ等入居者と協働している。らっきょ浸け、干し柿づくり、梅干し浸け、筍の皮むき、おはぎ、団子、バイキングのおにぎり作りなど季節感を味わい楽しめるようお手伝いをお願いしている。	ご自分のかつぼうを着て、下膳等をして下さっている。畑のお芋も使い、料理の下ごしらえやお団子作りもして下さっている。生活歴の中で、磯に行つて貝を探られていた方もおられ、お刺身なども喜ばれている。“ひきとうし”などの郷土料理も作られており、今後も入居者から郷土料理の作り方を教えて頂く予定にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量と食事摂取量の記録。嗜好を知り、嫌いなものでも調理に工夫。嚥下摂食に問題のある方の軟食、ミキサー食でも彩り、飾りつけに工夫をして見た目でも美味しく食べて頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の観察、3回/日の口腔ケア実施。歯磨き、うがい、義歯の清掃見守り。口腔ケアが自力でできない人には医療用不織布で口腔清拭施行。2回/月は義歯のポリドント清掃実施		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はショーツ、夜間はパンツなど自立支援している。また、個々の表情、仕草を観察し定時的なトイレ誘導実施。	下着を使用し、トイレで自立している方もおられる。排泄パターンを把握し、必要に応じた声かけを行い、失禁を減らすように努めている。排尿量に応じたパッドのサイズを検討したり、体調に応じてポータブルトイレを利用するなど、個別に応じた排泄支援の検討がされている。羞恥心への配慮も行き、トイレの外で待機する事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給(お茶、コーヒー、紅茶、ヤクルト、ミネラル水、牛乳)お茶ゼリー、などで水補。トイレ誘導、食事前等室内歩行や、みのり周辺への散歩。毎日の献立に野菜、芋などのメニューを入れる工夫		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午前中の中の入浴時間を定めているが、希望に合わせて入浴することも可能である。外泊前に入浴、夏場のシャワー浴等も支援	週に3回以上、入浴される方もおられ、希望に応じて足浴・手浴などもしている。特殊浴槽が設置されており、立位困難な方も安楽に入浴できている。入浴時の転倒予防対策も検討し、安全に入浴できるように努めている。体調によってはシャワー浴などもしており、入浴中は職員との会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向の入居者には昼間の屋外活動を取り入れている。毎日の生活でメリハリをつける。(日付け、時間の確認、離床、テレビ体操、風船バレー大会、合唱、作品づくり、散歩、リハビリ等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表作成。各職員が薬の内容、服薬方法、副作用等を把握、確認している。臨時薬、変更時もクリニック看護師との連携、申し送りでの情報共有あり		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケで歌ったり、読書、パズル、草取り、生花、調理等個々の楽しみ毎の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と共に外出やドライブに出かけたり、法人の車を利用した個別の送迎や集団でのドライブを行っている。希望があれば、ご家族の主行事に(正月、お盆、法要、結婚式)入居者の参加支援をしていきたい。	重度化に伴い、全員での外出が困難になっているが、季節を感じ、香岐の自然を感じて頂けるように努めている。弁天崎公園(藤の花)、コスモス街道、錦浜などへのドライブを行い、季節に応じた花見も楽しんでいる。ホーム周辺の散歩は日常であり、ダイエーや100円ショップに買い物に行かれている。山笠見学やドライブを兼ねての外出も楽しんでいる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所預かりの現金はない。買い物で外出した時は支払の支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から便箋封筒を渡されている利用者がある。また郵便が届いたら、返事を書いてみてはどうかと促したりしている。携帯電話の所持者あり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きく分けて居室、居間(テーブル、ソファ)の空間利用の工夫。利用者と一緒に作った作品や行事の時の写真などを飾っている。季節の花などを飾っている。	管理者や職員の顔写真を活用し、可愛い魔女に扮した貼り絵があり、職員同士の関係の良さが伝わってきた。25年度は新しいソファカバーを新調し、入居者の方からも「よか柄ね」と喜んで下さった。毎朝、入居者と一緒に掃除を行い、清潔な空間となっている。リビングの壁には日めくりがあり、毎日めくって下さる方もおられる。今後も、今の環境を入居者視点で考えていく予定にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに気の合う利用者同士一緒に座っていただく。また食事テーブルについても同じ		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持込は自由となっている。利用者の趣向に合わせて本を置いたり、テーブルを置いたりしている。居室にはタンスや小物など思い出の品が持ち込まれている。	全ての居室に白い大きめの収納棚があり、アルバムや贈り物、ご自分で買ってこられた観葉植物なども飾られている。ホームのソファを部屋に置いて、家族の面会用に使われている方もおられる。クロスワードをお部屋で楽しまれたり、週刊誌や魚の図鑑を読まれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の入口へお花などの飾りでご自分の部屋を解り易く表示している。屋内の洗濯ものは取り入れや整理をお願いしている。ADLが自立されている方には自室のできる掃除などもお願いしている。		